

# 第58回 関東甲信越静地区造形教育研究大会東京大会

## みつめる つくりだす つながる ～未来をひらく造形教育～

分科会テーマ

### ① みつめる

#### 子供が見つめる

造形活動の体験を通してみつめ、得られた発見の積み重ね、経験の蓄積などによって鍛えられていく「造形的な見方・考え方」

#### 教師が見つめる

「学びの目標」に基づいて授業の課程における子供の学びを見つめる。  
子供の学びが豊かになったり、深まったりした姿を見つめる。

育成する資質や能力に対して、題材の設定やその手立てが有効であるのか、自分の授業をみつめる。  
題材を学ぶ意義「何のために学ぶのか」「題材を通して学んだことが、その後、子供の人生にどう生きるのか」  
例えば・・・授業の導入や 授業の終末の指導の工夫などから

### ② つくりだす

#### 子供が主体的につくりだす

子供が主体性を発揮し、造形的な見方・考え方を働かせ、一人一人が自分なりの意味や価値をつくりだす。

#### 教師がつくりだす

プロセスの中に学びがある授業をつくりだす。

やるべきことが「わかる」やりたいことが「見つかる」やりたいことが「やれる」授業を創造する。  
子供がやらされている感ではなく「自分ごと」として活動し、課程の中から生まれる子供の「気づき」「意欲の高まり」を意図的につくりだす。

### ③ つながる (連携) ～生活や社会と豊かに関わる美術～

#### 子供がつながる

子供と子供、子供と地域や社会がつながり、自分の考えを広げたり深めたりし、生活や社会と豊かに関わる美術の働きや美術文化についてとらえ、子供が自分なりの意味や価値をつくりだす。

#### 教師がつながる

他の教科等や地域社会、美術館などの機関と教師がつながり、子供が多面的な視点から学びを深める授業をつくりだす。